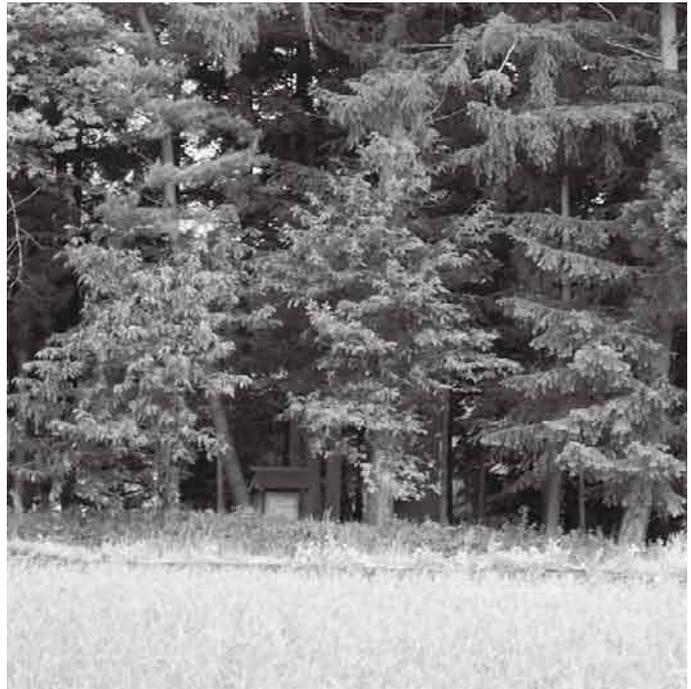




今後の水田農業の目指すべき方向と施策誘導について

菊池 由紀夫 議員
(新興会)

問 多様な水田稲作が展開されている中、慣行栽培によらず、作物や土壌が持つ本来の力を発揮させた遠野市の特性を生かした特別な手法による米づくりが、積極的に展開されている。基盤整備により営農組合を組織し、取り組む地域、他方の沢ざわでは牛を飼う畑作物を栽培し、有機複合経営を頑なに守っている地域があ



ほころ
すくすく育つ稲を見守る小さな祠

答 東日本大震災を受けての食糧としての農業、地域特性を活かしたあり方提言を踏まえた質問と受け止めた。

市民一人ひとりが、地域の中で後方支援活動を行った。このことを重く受け止め、なお一層市民の皆様と一緒にやりながら対応したい。

陸前高田の志田さんの取り組みは、大震災の中、遠野の水田が大きな力強い後押しになっていて、ことと理解し、そうした取り組みも遠野の役割としてあった。また、安心した農業・北日本が厳しい環境の中でも頑張ってきた慣行栽培から思い切った地域の特性を活かした遠野スタイルの農業のあり方、米づくりのあり方を、決意と信念を持ってやってはとの問いかけと受け止めた。

食糧としての米の有り難さを今回の大震災で知らされた。それは大槌町の方からの直に聞いた話で、災害後はじめて食べたいのは遠野のおにぎり、1個のおにぎりを2人で分けて食べたのと。米がおにぎりになって可能になった命を繋ぐ食料となった。タフビ

ジョンにおいても、耕作放棄地ゼロ宣言を打ち出し、食糧生産における価値と共に、国土保全も重要な役割として位置づけている。今後安心安全というキーワードの中で、消費者が求めるニーズに応える栽培の方法も多様化しており、今後地域特性を活かして取り組めるのではと思われる。そのためには市堆肥センターの堆肥を活用し、可能な限り化学肥料を低減しながら環境保全に配慮し、経費を抑えた栽培方法を推奨していきたい。

また、市内5つの堆肥センターの役割が重要になることから、再度活性化本部において検証し、ネットワークを強化し、耕畜連携資源循環型農業を推進し、タフビジョンの目指すべき姿であるブランド化を進めたい。